

日本道德教育方法学会第 21 回研究発表大会 プログラム

期日：平成 27 年 6 月 13 日（土）、14 日（日）

会場：大阪教育大学天王寺キャンパス（西館） 〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

大会事務局： 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1

大阪教育大学学校教育講座 小林将太研究室

主催：日本道德教育方法学会

後援：大阪教育大学

大会参加費 2,000 円 ・会員、非会員とも。当日、受付（1 階ホール横の第 2 講義室）にて徴収します。

懇親会費 4,000 円 ・懇親会は会員、非会員を問わず参加できます。
（希望者のみ）

【第 1 日】6 月 13 日（土）

11:00	12:30	13:00	14:55	15:10	17:40	18:00	20:00
理事会 (第 8 講義室)	受 付	自由課題研究発表 分科会Ⅰ～分科会Ⅳ	シンポジウム (ホール)		懇親会 (福井食堂)		

会員控室（1 階ホール横の第 2 講義室）

理事会 11 時 00 分～13 時 00 分（第 8 講義室）

受 付 12 時 30 分～（1 階ホール横の第 2 講義室）

自由課題研究発表（発表 25 分・質疑 30 分）

分科会Ⅰ（第 3 講義室） 司会：田邊 重任（高知大学）

13:00～13:55 ① 児童生徒の心に響く魅力ある道德授業
鈴木 賢一（愛知県愛西市立八開中学校）

14:00～14:55 ② 社会正義の道德授業のあり方—小・中による指導の違い—
鈴木 保宏（愛知県西尾市立米津小学校）
中山 芳明（京都市総合教育センター）

分科会Ⅱ（第 5 講義室） 司会：林 泰成（上越教育大学大学院）

13:00～13:55 ① 道德の授業を核とした教員の力量形成
～道德の授業研修の場でどのような学びが生起しているのか～
今川 美幸（兵庫県たつの市立龍野西中学校）

14:00～14:55 ② 教育観の転換による自律した教師と質の高い教師集団づくり
—成果志向から了解志向を目指して—
手塚 裕（尚美学園大学【非】）

分科会Ⅲ（第 6 講義室） 司会：藤永 芳純（元 大阪教育大学）

13:00～13:55 ① 防災教育と道德教育—三原市立第二中学校の取り組みを通して
上村 崇（福山平成大学）
奥田 麻衣（神奈川大学）

14:00～14:55 ② 中華人民共和国の道德教科書における戦争と平和
上蘭 恒太郎（長崎総合科学大学）
蒲池 文恵（中華人民共和国煙台南山学院）

分科会Ⅳ（第 7 講義室） 司会：澤田 浩一（文部科学省／国立教育政策研究所）

13:00～13:55 ① 「知的な徳」としての道德性—徳認識論から道德教育を捉えなおす試み—
杉田 浩崇（愛媛大学）

14:00～14:55 ② 学校教育法第 11 条但書（体罰の禁止）に関する研究—教育倫理学的アプローチによって—
竹田 敏彦（広島国際大学）

シンポジウム 15時10分～17時40分 (ホール)

テーマ：「特別の教科」としての道徳を考える

企画趣旨

昨年（2014年）10月に中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」が提出され、今年（2015年）3月27日に小・中学校の学習指導要領が一部改正された。「道徳科」という「特別の教科」の誕生である。戦前の修身科に対する反省と、戦後の学校教育において常に求められてきた道徳教育の充実を求める声の狭間で、1958（昭和33）年に道徳の時間が特設された際にも決して教科とはみなされなかった道徳授業が、「特別の」という限定的な修飾語を伴いながらも「教科」として位置づけられた。その意味では、今まさに1958年以來の道徳教育の大きな歴史的転換点に私たちは立っているといえる。

もっとも、学校の教育活動全体を通じておこなわれる道徳教育と、週1時間の授業としておこなわれてきた道徳の時間による二重構造は、今回の改正によっても道徳教育とその要としての道徳科という全く同じ構造のまま保持されている。また、道徳の教科化が必要な理由として常に第一に語られてきた道徳授業改善についても、学習指導要領の新たな記述を見てみれば、これまで意識的に道徳授業改善へと取り組んできた人々のめざしていた方向性となんら矛盾するものではないようにも受け取れる。そもそも、評価の具体的な方法や教科書の内容もまだ明示されていない現段階では、道徳の教科化によって幕を開ける道徳新時代の全容はいまだ明らかになってはいないといえるだろう。

上記の理由に加え、『解説 道徳編』が現段階（4月現在）では示されていないこと、またシンポジウム当日までにそれが示されたとしても検討する時間が十分に取れないことなどを考えると、今回のシンポジウムでは道徳の教科化について参加者が知りたいと思っていることに十分に答えることは困難であろうと思われる。そこで、今回のシンポジウムでは、フロアーの参加者を「主役」にして、できるだけ多くの方々の意見や思いを表出する場を設定することに重きを置いている。シンポジウムとしてのまとまりは期待できないかもしれないが、「特別の教科」としての道徳について参加者一人ひとりが考え、コメントする機会を提供することによって、この問題を身近な問題として考える契機となること、それが本シンポジウムのねらいである。

◇ 司会 上 蘭 恒太郎 （長崎総合科学大学）
 淀澤 勝治 （兵庫教育大学）

◇ シンポジスト 植田 和也 （香川大学）
 堺 正之 （福岡教育大学）
 服部 敬一 （大阪市立豊仁小学校）
 柳沼 良太 （岐阜大学）

（五十音順）

懇親会 18時00分～20時00分 (キャンパス内 福井食堂)

【第2日】6月14日（日）

8:30 9:00 11:55 13:00 13:45 14:00 16:00

受付	自由課題研究発表 分科会Ⅴ～分科会Ⅶ	<昼食> 評議員会 (第8講義室)	会員総会 (ホール)	課題研究 (ホール)
----	-----------------------	-------------------------	---------------	---------------

会員控室（1階ホール横の第2講義室）

受付 8時30分～（1階ホール横の第2講義室）

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅴ（第5講義室） 司会：柴原 弘志（京都産業大学）

9:00～9:55 ① 保護者の道徳性に対する意識について

林 美代（太成学院大学）

10:00～10:55 ② 徳性の考察

伊澤 貞治（皐月幼稚園）

11:00～11:55 ③ 知識と行動による道徳性涵養は可能か

一人間行動の自動性を原理とした道徳教育への学際的アプローチ

鍵水 浩（東京成徳大学【非】／千葉県白井市立南山中学校）

分科会Ⅵ（第6講義室） 司会：七條 正典（香川大学）

9:00～9:55 ① 「自主的発展型」道徳授業の可能性についての一考察－新聞記事の特性を活かして－

藤井 浩喜（大阪府藤井寺市立藤井寺中学校）

10:00～10:55 ② 聞く資料による道徳授業－子どもの自己肯定感を育むために－

畑島 英史（長崎県佐世保市立祇園小学校）

上菌 恒太郎（長崎総合科学大学）

11:00～11:55 ③ 「ふくしま道徳教育資料集」の作成に見る教材観

－教材作成者は何を見つめ、何を伝えたかったのか－

白木 みどり（金沢工業大学）

渡邊 真魚（福島県郡山市立明健中学校）

分科会Ⅶ（第7講義室） 司会：上地 完治（琉球大学）

9:00～9:55 ① 道徳科における評価に向けての一考察－「ねらいに即した観点による評価」の試み－

萩野 奈幹（兵庫教育大学大学院【院】／兵庫県加古川市立平岡小学校）

10:00～10:55 ② 低・中・高学年で同一資料を用いる場合のねらいの違い

～資料「はしの上のおおかみ」を用いて～

中山 真樹（大阪府高槻市立竹の内小学校）

11:00～11:55 ③ 分かってできる「成長実感」を持たせられる道徳授業－指導過程の工夫を中心に－

柴田 八重子（愛知淑徳大学【非】）

※ 第2日の昼食について：天王寺駅・寺田町駅周辺など、昼食場所は多数あります。

評議員会 12時00分～13時00分（第8講義室）

会員総会 13時00分～13時45分（ホール）

テーマ：学習指導要領一部改正の趣旨を生かす「特別の教科 道徳」の具体的展開

企画趣旨

小中学校及び特別支援学校の学習指導要領が一部改正され、先の3月27日に告示された。このことによって、道徳の時間は、「特別の教科」としての「道徳科」として新たな趣旨で実施されることとなった。全面的な実施は平成30年度からとされているが、それに向けての先行実施の期間から、私たちは強い関心をもち、できるところから取り組んでいくことが必要になる。

道徳授業が、「道徳の時間」から「特別の教科」として新たな趣旨を置いて再出発することになった背景には、その実施実態についての大きな課題がある。長く道徳授業への忌避傾向が続き、授業のやりやすさが過度に追求された結果、その硬直化傾向が進み、子供にとって魅力と切実感が乏しく、教師にとっても効力感が不十分な授業になってきた経緯がしばしば指摘されている

そこで、本課題研究においては、1日目のシンポジウムの総括的、全体的な検討を受け、授業の具体的な交流をもとに課題に向き合うこととしたい。協議において小中学校の道徳授業実践家の実際の授業への取組の提案を受け、これからに期待される授業の在り方について多彩な知見を得たいと考える。

協議の柱は、その場での問題提起や課題によって整理される部分もあるが、主として次の点を目安に柱を立てて、議論を深めることを期待したい。

ア 学習指導要領の一部改正の趣旨を生かす道徳授業に求められるもの

イ 上記の期待に応えることのできる道徳授業の具体的な創意工夫

ウ 教科としての道徳授業に生かすことができる教材に必要な視点

エ 指導（及びその評価）に関する全面的な実施までに取り組むべき課題 ほか

◇ 登壇者

- | | | |
|---------|---------|-----------------|
| 実践報告と提案 | 1 福永 悠人 | (大阪市立荻田小学校) |
| | 2 尾崎 正美 | (岡山大学教育学部附属小学校) |
| | 3 鈴木 賢一 | (愛知県愛西市立八開中学校) |
| コメンテーター | 永田 繁雄 | (東京学芸大学) |

◇ コーディネーター

田沼 茂紀 (國學院大學)